CURES Salon ═══私の研究関心═══

アグリゲーション（経済事象のモデル化）と取り組んで

前　田　敬四郎

経済の動きを出来るだけ忠実に把握するために、先づ、我々はモデルを作って現実経済の複製を試み、複製がうまく行ったかどうかをテストするためにシュミレーションを行う。

モデルを作るに当っては、複雑な現実を複製するのだから、どうしても単純化という仕事を避けて通ることは出来ない。私の研究というのは、この単純化に関連したアグリゲーションの問題である。

単純化には、概念やモデルの単純化とデータのそれとの二つが存在する。概念やモデルについての単純化は、経済理論の分野に属し、経済分析はマクロがよいのかミクロがよいのかという様な問題は、その１つである。アグリゲーションを行う時、費用としての情報損失と便益としての明快さが生ずる。モデルという器に関しての２、３の論文を書いた。

最近は、器から中に入れるデータ・セットについてのアグリゲーションの問題に関心がある。データ・セットの選別、分解、統合という一連の操作に関するものである。現実の生のデータ・セットと処理されたものとの間に誤差を生ずる。その場合に、出来るだけ誤差を少なくするために、回帰分析やマッチングという処理を行う。

計量経済学を専攻している私は、抽象的経済モデルを出来るだけ誰れにも解るように具体化せねばならぬ。そのとき、モデルやデータの簡明化は不可避である。アグリゲーションに関心を持つ理由も此処にある。

（金沢大学経済学部教授）

よい。労働者側の労働移動の困難さと、企業の要求との「日本的解決形態」が「単身赴任」というわけである（それが真の解決と言えないことは、単身赴任が夫婦関係や子供の教育にとってマイナスの影響をもたらしていることを想起すればよい）。円高不況下で、企業の雇用管理方針が、幹部社員だけでなく、末端のホワイトカラーや現場労働者にまで配転、出向による全国移動を強制している折、「単身赴任」を強いられる者は増加している。

円高不況による地域経済の破壊、「構造調整」政策の促進は、前述した労働者のライフサイクルの見通しをも根底からくつがえすことになった。自由に移動する資本にともなって、地域間、企業間、職種間、業種間を自由に移動できる労働者だけが生き残り、それが困難な者は、労働する場が与えられない、ということになりかねない。

こうした事態にめぐりあわせた今、地域に根をおろしたライフサイクルの再建の観点から、地域経済と「地域労働市場」の再建を目指す努力が問われているのではないか。こうした試みは「産業空洞化」を防ぎ、国民経済を再建する課題と一体にならなければ十全なものにはならないであろう。この課題の実現のためには、自由に国境を越えようとする資本にたいする社会的規制もまた不可欠の条件になっている。

（金沢大学経済学部助教授）